

平成 25 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること)

認知症高齢者の千代紙貼り作業の特徴
～介護老人保健施設の女性入所者を対象として～

学位の種類: 修士 (作業療法学)

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学域
学修番号 11896603

氏名: 菊地 信貴

(指導教員名: 小林 法一 教授)

注: 1 ページあたり 1,000 字程度 (欧文の場合 300 ワード程度) で、本様式 1~2 枚 (A 4 版) 程度とする。

【目的】認知症高齢者の遂行機能を適切に評価することは、認知症高齢者のケアや作業療法を展開する上で極めて重要である。そこで、本研究では、Lezak の遂行機能の定義に基づき「目標に向かって計画を実際に行うこと」や「効果的に行動を行うこと」などの観点から認知症高齢者の千代紙貼り作業を観察し、その特徴を調べるとともに日常生活状況との関連を検討した。本研究の目的は遂行機能の観点から認知症高齢者の千代紙貼り作業の特徴を明らかにすることである。

【方法】対象は介護老人保健施設入所中の女性高齢者である。5 名を対象に予備調査を行い、千代紙貼り作業中の行為と作品の特徴から「千代紙貼り課題のチェック表」を作成した。次に、上肢の運動機能に問題がなく、日常会話が可能で、千代紙の色の識別ができる程度の視力がある 65 歳以上の女性 43 名 (85.1±7.3 歳) を対象に、本調査を実施した。作成したチェック表を用いて千代紙貼り作業を観察するとともに、N 式老年者用精神状態尺度 (NM スケール) および N 式老年者用日常生活動作能力評価尺度 (N-ADL) を用いて日常生活状況の観察評価を行った。

【結果】チェック項目と NM スケールおよび N-ADL の各項目の相関分析の結果、多数の項目間で有意な相関が認められた。特に「提示文の内容を 3 枚試行」と「記銘記憶」の間の相関が 0.72 ($p < 0.01$) と最も強かった。その他、「千代紙の端のめくれ数」、「提示文を復唱する」、「間違いを修正する」などのチェック項目と NM スケールの各項目との間に比較的強い相関が認められた。N-ADL の各項目との相関分析の結果も多数の項目間で有意な相関が認められた。特に相関係数が高かったのは、「提示文の内容を 3 枚試行」と排泄 0.57 ($p < 0.01$)、摂食 0.53 ($p < 0.01$) などであった。

【考察】チェック表に挙げた各チェック項目は対象者の遂行機能の一側面を捉えていると考えられる。どの項目も Lezak の 4 つの遂行機能の要素 (コンポーネント) が複合的に関係すると思われる。本チェック表の利用により、「目標の設定」や「計画の立案」、「目標に向かって実際に行う」といった遂行機能の観点で認知症高齢者の千代紙貼り作業の特徴の一端を捉えることができると考える。また、チェック表から得られる情報は、日常生活場面で対象者に新規の事柄を勧めるかどうかなど、ケアの方針を立てる際の判断や対象者に提供する作業課題の難易度の設定や段階づけを考える際の指標として役立つ可能性がある。